

## プロジェクト課題No.3

# 生食用ぶどうの ブランド化による生産拡大

対象者：南三陸大粒ぶどう協議会(会員9人)

計画期間：令和6年度～令和7年度

チーム員：◎高橋、村主、門間

## 1-1 課題の背景(対象の概要)

- ・南三陸町では生食用ぶどうの作付が拡大している。
- ・中山間地でも栽培しやすく、高収益であり、新植する生産者が増加している。

### 【対象】 南三陸大粒ぶどう協議会

- ・令和5年11月設立。会員：11名 栽培面積：約70a(R6.8現在)
- ・統一の基準に基づく高品質な大粒系ぶどうの生産販売及びブランド化による生産拡大・認知度向上を目指している。
- ・環境負荷低減の取組(化学肥料・農薬の使用低減、町内資源を活用した施肥、土づくり等)の実施による差別化、付加価値向上を目指している。

## 1-2 課題の背景(ねらい)

- ブランド化に向けて、補助事業等も活用したロゴマーク、リーフレットの作成、PR等の支援が求められている。
- 栽培歴の浅い生産者が多く、会員間の技術平準化に向けた支援が必要。環境負荷低減の取組の導入に向けても、併せて支援が必要。
- 現在は地域直売所への出荷や庭先販売がほとんどだが、今後の生産量増加を見据え、南三陸町産ぶどうの評価向上等による販売力強化が必要。

栽培技術向上、付加価値創出による生食用ぶどうのブランド化を支援し、ぶどうの生産量・販売量の増加により、新たな産地形成を図る。

## 2 今年度の目標

- (1)南三陸町産ぶどうのブランド化が図られる
- (2)展示ほ設置等により、環境負荷低減の取組や新技術の導入が行われる

### ■数値目標

ブランド化したぶどうの販売量※

【R5】 0kg → 【R6】 240kg → 【R7】 300kg

※会員のぶどう総販売量の60%を目指す

【R5】 350kg → 【R6】 400kg(前年比15%増) → 【R7】 500kg(前年比25%増)



## 3 活動内容

5

### (1) ブランド化支援

#### ① ブランド化に向けた話し合いの場の設置

- ・ブランド愛称の決定やロゴデザイン等の作成に向けて、協議会での話し合いの実施を支援。
- ・巡回時や行事等で会員へ進捗状況や打合せ内容を共有し、意見を集約。



## 3 活動内容

6

### (1) ブランド化支援

#### ② 目揃え会の開催支援

- ・品種の収穫時期の違いに合わせて、計2回の目揃え会開催を支援。
- ・果実品質等の出荷基準や販売価格を統一したものとするため、会員の目合わせを実施。



# 3 活動内容

## (2) 栽培技術向上及び環境負荷低減、新技術の導入支援

### ①巡回指導・栽培研修会の開催

- ・ジベレリン処理、花穂整形、摘粒、副梢管理、病害虫防除等の高品質果実生産に重要な技術の習得・実施を支援。
- ・栽培研修会は5月、6月の2回開催。



### ②栽培暦、栽培チェックシートの活用促進

令和6年度 南三陸大粒ぶどう協議会栽培暦（大粒系品種 雨よけ・無核化栽培）1/2枚目  
栽培暦前につづき、1頁より2頁までの概要となるような栽培方法を記載しています

時期	生育ステージ	作業	内容
2月 ～ 3月	採種期	病害虫対策	・前年の発生、巻き上げは病害虫の発生源になるため、除去する。 ・薬剤剤理を行う。
3月		かん水	水分不足は発芽遅延や発芽不揃いを招くため、土が乾燥しないように程度にかん水を行う。
3月中旬 ～ 下旬		芽摘み	主幹基幹部の高節から3分の2の高節に対して、葉芽を採集するため、芽摘み用のノコギリで芽摘み（高節方向）5本の位置に葉を入れる。

令和6年度南三陸大粒ぶどう協議会 栽培チェックシート

栽培管理	日数	氏名		備考
		手元	作業員	
芽摘み	芽摘み後	<input type="checkbox"/>	氏 日	
副梢摘除	摘除後	<input type="checkbox"/>	氏 日	
摘心	摘心後	<input type="checkbox"/>	氏 日	
摘粒	摘粒後	<input type="checkbox"/>	氏 日	
副梢摘除の完了	完了後	<input type="checkbox"/>	氏 日	副梢摘除時
ジベレリン処理①・アダレ①	完了後	<input type="checkbox"/>	氏 日	
ジベレリン処理②	完了後	<input type="checkbox"/>	氏 日	
摘心	摘心後	<input type="checkbox"/>	氏 日	
摘粒	摘粒後	<input type="checkbox"/>	氏 日	
副梢摘除	副梢摘除後	<input type="checkbox"/>	氏 日	
摘心	摘心後	<input type="checkbox"/>	氏 日	
摘粒	摘粒後	<input type="checkbox"/>	氏 日	

# 3 活動内容

## (2) 栽培技術向上及び環境負荷低減、新技術の導入支援

### ③展示ほ設置

- ・町内バイオガス施設で生産されるメタン発酵消化液の活用に向けて、試験施用を実施。施用量、施用方法を検討。



- ・シャインマスカットの果皮黄化、かすり症の軽減のため、有色果実袋利用を展示。



(左) 有色袋の利用  
(右) 令和5年の果皮黄化、かすり症の発生果



### 3 活動内容

9

(2)栽培技術向上及び環境負荷低減、新技術の導入支援

#### ④先進地視察研修

・栗原市、大崎市の先進的生産者の園地を視察(7月)。



### 4 これまでの成果

10

(1)ブランド化支援

- ・愛称「しおかぜ葡萄」に決定。
- ・南三陸町の補助事業を活用し、ロゴデザイン、シール、リーフレット、ポスター等を作成。
- ・リーフレットやポスター掲示等によるPRを実施。

➡ブランドの付加価値創出、新ブランドのPRが行われた。



## 4 これまでの成果

11

### (1) ブランド化支援

- ・目揃え会の開催により、品種ごとに房重、房型、果皮色等の品質を確認し、出荷基準が統一され、基準に基づいた出荷が行われている。主に町内外の直売所で販売。

#### 【出荷基準】

- ①房重量が赤・黒系品種で概ね300g以上、黄緑系品種で概ね400g以上で房型が良好なもの
- ②果粒が揃っており、目立った小粒のないもの
- ③病虫害や果皮の汚れ等が目立たないもの



## 4 これまでの成果

12

### (2) 栽培技術向上及び環境負荷低減、新技術の導入支援

- ・花穂整形、ジベレリン処理、摘粒、副梢管理等の技術力が向上し、概ね栽培暦に沿った栽培管理が行われ、果粒肥大、房型等の果実品質が向上。
- ・うどんこ病の発生が散見されたが、その後の適切な防除により抑制された。
- ・会員各自がメタン発酵消化液や貝殻の施用など、町内の資源を有効活用した取組を実施。
- ・有色果実袋利用による果皮の黄化、かすり症の発生抑制技術を多くの会員が導入。



## 4 今後の対応

---

### (1) ブランド化支援

- ・9月7日の「さんさん商店街」での販売会開催を支援し、「しおかぜ葡萄」のPR、販売促進
- ・販売実績の取りまとめ、課題の洗い出し
- ・次年度の販売計画の検討

### (2) 栽培技術向上及び環境負荷低減、新技術の導入支援

- ・収穫後の技術指導(せん定、施肥、土づくり等)
- ・今作の振り返り、課題の検討と改善に向けた指導
- ・環境負荷低減の取組の効果、実施方法等について、さらなる検証を実施